

令和4年度群馬県立高崎東高等学校3学期始業式講話

皆さん、こんにちは。いよいよ、本年度の総まとめである3学期が始まりました。皆さんの冬季休業は充実していましたか。進学も進級もこの学期で結果が出ます。3学期は登校する日数も他の学期と比べ少ないので、日々悔いのないように過ごしてみてください。

さて私は地歴・公民科の教師として教壇に立ってきました。新しい年が始まると、癖で10年前には何があったか、100年前には何があったか、などと調べてみます。2023年のち丁度100日前、1923年は9月に関東大震災がありました。震災に関わる話は2学期の始業式でしたので、目を世界に向けて100年前の出来事を見てみると、トルコ共和国が建国されたのが1923年になります。オスマン帝国として第一次世界大戦に参加しますが、敗戦を経て民主化運動をはじめ、皇帝を追放し共和国として生まれ変わったのがこの年になります。

ところでトルコは親日的な国としても有名ですが、この親日となるきっかけを作った人物は群馬県とも関係のある人です。オスマン帝国は1889年、航海訓練を兼ねて数百名の使節団を軍艦エルトゥールル号に乗せ日本に派遣しましたがその帰路、台風による強風にあおられたエルトゥールル号は和歌山県串本町の沖合で岩礁に激突、大破してしまいます。海に投げ出された乗組員のうち10名が救助を求め、串本町の住民たちは総出で救助に当たり、69名の乗組員の命が助かりました。しかし、結果的には587名のトルコの人々が死亡、または行方不明という大惨事になりました。その後、日本は軍艦2隻で生存者たちをトルコに送り届けました。またこの惨事に心を痛めた旧沼田藩士山田虎次郎は日本全土に義援金を募り、オスマン帝国にそのお金を届けます。この日本そして山田の行為は多くのトルコ人の心を打ったことは言うまでもありません。山田はオスマン帝国の皇帝から士官学校で若者たちに日本語と日本文化を教えることを頼まれます。山田が教えたこの士官学校の生徒の中からアタチュルクという人物が出ますが、彼が初代のトルコ共和国の大統領になるのです。

そして1985年、その5年前から始まったイラン・イラク戦争で、イラクは今から48時間の猶予時間以降、イラン上空を飛ぶすべての航空機をミサイル等で攻撃すると宣言します。当時テヘランには多くの日本人が石油関連会社や貿易商社で働いていました。日本航空・自衛隊機は当時の法解釈では、イランに派遣することに慎重論が多く時間ばかりが過ぎていったようです。ところがトルコに駐在していた日本商社からトルコのオザル首相に日本人救出を依頼したところ、オザル首相は特別機を派遣することを決断し、トルコ航空は特別機を操縦するクルーを募ります。この時、トルコ航空の全パイロットが志願したそうです。タイムリミットぎりぎりにテヘランに到着した2機のトルコ航空は、約200名の日本人を乗せ日本に向けて出発しましたが、テヘランにいたトルコ人薬500名は日本人に自国の飛行機を譲り、自分たちは自動車をチャーターし陸路で帰国しました。なぜトルコは自国民より日本人をこれほどまでに優先したのか、その理由を当時のトルコの日本大使はこう話したそうです。「エルトゥールル号の恩を返したに過ぎない」と。当時の多くの日本人がエルトゥールル号事件のことは忘れていましたが、トルコでは学校の教科書に載るくらいこの事件は有名だったのです。以後、日本でもこの事件が再度有名になり、サッカーワールドカップが日本・韓国同時開催された2005年、トルコサッカーチームは和歌山県を合宿地に選ばれました。日本人救出にあたったトルコ航空のパイロット「オルハン・スヨルジュ」さんが今から10年前の2013年に亡くなると、日本でもその死が新聞記事となりました。エルトゥールル号事件とテヘラン脱出の二つの事件は、2015年に『海難』として小説化、そして映画化されました。

トルコ共和国建国100年ということで、日本とトルコの友好関係について話をしましたが、きっかけは人が危機に遭遇している時の何とかしてあげたいという無私無欲の行動です。この行動が100年以上たった今でも二つの国を強固な友好国として結び付けています。トルコ以外にもできれば本当に多くの沢山の国と、こうした関係が築かれてほしい、山田虎次郎さんのように勇気をもって行動を起こす、その小さな行動がやがて大

きな実を結ぶこともあります。残念ながら世界で未だ紛争が継続し、軍事的な緊張が高まっている 2023 年の年始にあたり、私たちが他国について何かできることはあるのか、今を生きる私たちがなればこそ、考えていかなければならないことだと思います。今日の講話で何か皆さんが何か感じ取ってもらえるものがあれば、話をした者としてうれしいかぎりです。今年も一緒に色々と考えたり、悩んだり、笑ったり、共感したりしながら過ごしていきましょう。

令和 5 年 1 月 1 0 日

群馬県立高崎東高等学校 校長 関口 俊邦